①　紙人形劇団ネリノ（代表：谷本和子／宇部市）

〈現状と課題〉

○若手メンバーの入団がない中、劇団内の高齢化が進み実稼働人数の減少に苦慮している

○コロナ感染症の影響で大型紙人形劇の周知の場を失っており、新たな会員の獲得が困難である

〈支　援〉

（１）若い世代に向けた紙人形劇の周知の場を設定

若い母親や学生をターゲットに、財団主催イベントでの公演や大学での訪問公演・アピールの場を設定

①「県民活動フェスタ」での紙人形劇の上演と活動紹介

日時：１０月２４日（土）／　場所：ルルサス防府　多目的ホール

参加者：一般観覧　５０人（親子連れが中心）

演目：耳をとりかえたライオン（作：中島　寿）

②山口芸術短期大学での紙人形劇の上演と活動紹介

日時：１１月２４日（火）／　場所：山口芸術短期大学　講義室Ｉ１１０

参加者：保育学科１年生と教員　８９人

演目：金色のあしおと（作：椋　鳩十）

（２）広報ツールの作成と配布

勧誘を目的としたミニチラシを作成しイベント等で配布

〈成果と今後〉

○山口芸術短期大学との連携により、大学生が紙人形劇に触れ、興味関心を持っていただく素地をつくることができた。公演後は実際に人形に触ったり動かしてみたりと興味を抱いた学生も多く、学校側との連携を継続していくことで学生の参加意欲を高め人材の確保につなげることは可能かと思われる。

○学生のみならず興味を持った方に気軽に参加いただけるよう、財団主催のイベント等を中心に一層の啓発を図りたい。

②　知的障がい者との共生グループ「グラント」（代表：吉竹　明子／下関市）

〈現状と課題〉

○ボランティア登録者の高齢化が進み、障がい当事者をフォローすることが体力的にも困難になっている

○コロナ感染症の拡大によりイベントを安全に実施することに不安があり、登録者の確保、参加者同士の交流の場が失われている

〈支　援〉

（１）団体主催のイベントでボランティア登録者の呼びかけを実施

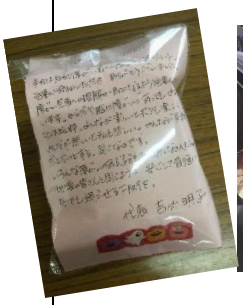
一般市民や企業に対して障がい者への理解促進を図るイベント「ハロウィン交流パレード」を企画し、活動を広く PR するとともに、支援者・協力者を呼び掛けるチラシを配布

日時：１０月３１日（土）15：30～16：00／16：00～16：30 の２回

場所：下関市唐戸商店街周辺

参加者：約５０人（会員、商店街や施設の社員、障害児・者の施設職員等）

※その他「ゆっくり歩こう５キロウォーク」を下関市深坂の森で企画していたが、コロナ感染症の拡大により開催を中止



（２）組織体制や運営についてのアドバイス

やまぐち県民活動支援センターの伊藤センター長と団体を訪問し、今後の効率的な運営についてアドバイスを実施

日時：１２月１７日（木）11：00～

場所：一進ゼミ（下関市武久町）

参加者：４人（会員２人、伊藤センター長、森永）

〈成果と今後〉

○イベントはコロナ感染症の影響で一部中止となったが、交流パレードについては無事実施でき、活動を PR することができた。
これにより、新たなボランティア登録者を２人増やすことができた。

○組織体制のスリム化や役割分担、スムーズな事業の実施方法等についてアドバイスすることで、今後の事務局体制、イベント等の運営体制を改めて見直す機会となった。今後は会であらためて検討していく予定。

○団体の意向により令和２年度で支援は終了。次年度以降は、組織を立て直しながら、引き続きコロナ禍でも情報発信やイベントを行うことで、「新たな会員、協力者を獲得していきたい」とのこと。

①　紙人形劇団ネリノ〈支援２年目〉　（代表：谷本　和子／宇部市）

〈現状と課題〉

○若手メンバーの入団がない中、劇団内の高齢化が進み実稼働人数の減少に苦慮している
○大学との連携が進み始めたので、これを継続して若い学生を活動に呼び込みたい

〈支　援〉

（１）若い世代に向けた紙人形劇の周知の場を設定

若い母親や学生をターゲットに、団体主催イベントでの公演や大学での訪問公演・アピールの場を設定

①宇部市立図書館での定期公演で活動を PR
日時：10 月 16 日（土）13：30～14：30
場所：宇部市立図書館２階講座室
参加者：３６人（親子連れ等一般からの参加者）
演目：「金色の足おと」（作：椋　鳩十）

②山口芸術短期大学での紙人形劇の上演と活動紹介

日時：１２月９日（火）16：50～18：00
場所：山口芸術短期大学　講義室 I110 教室
参加者：９８人（保育学科１年生と教員）
演目：「金色の足おと」（作：椋　鳩十）
○上演後は会員の紹介と活動の魅力を PR
○後片付けを学生と一緒に行い、人形に触れる機会も提供

（２）広報ツールの作成と配布

勧誘を目的としたミニチラシを作成しイベント等で配布

（３）活動に必要な備品の購入と PR グッズの作成

○暗幕の代わりとなるマルチシート（ブラック）の購入
○団体 PR のための「のぼり」を作成

〈成果と今後〉

○山口芸術短期大学との連携が２年目となり、昨年度に続いて学生に紙人形劇を知り、興味を持っていただけるような場を設けることができた。保育学科１年生の学生が１人、体験入会という形で活動に参加するようになった。
○公演等を通じての地道な声掛けにより新たな会員が１人加入された。
○大学側との連携もでき、「劇団」の活動が学生にスムーズに受け入れられてきている。また、学生の入会により団体の活気も満ちており、新たな作品づくりの意欲も高まっている。若者に PR できる場を今後も設定していきたい。

②　宇部音楽鑑賞協会（代表：永谷　政一／宇部市）

〈現状と課題〉

○コロナ感染症の拡大により、イベントが中止となり会費収入や入場料収入が減少、運営が厳しくなっている
○イベントの中止によって、対面による会員の勧誘ができなくなったため、人材確保が進まない。また、会員の高齢化が進み、中心となって運営をしてくれる数が減っている
○若い世代の人材確保が必要であり、働きかけをしていきたいが難しい

〈支　援〉

（１）インターネットによる情報発信についての研修を実施
比較的若い層が活用されている ＳＮＳや、管理が楽で多くの情報を一度に発信できるホームページ等、インターネットを活用した活動の情報発信の手法について専門講師から学ぶ場を設定
日時：９月２２日（水）10：30～12：00
場所：宇部音楽鑑賞協会事務所　参加者：４人（会員２人、講師、森永）
講師：吉冨　昌宏（ギアデジタル　代表）
受講後、会の方向性を決定
○まずは先進の団体事例を参考にしながら、手軽にスタートできるＳＮＳでの情報発信から開始
○団体公式のＬＩＮＥアカウントを取得後、そこから現会員に情報を発信し、ロコミ、ポスターやチラシにＱＲコードを張り付ける等をして拡げていくようにする
○ＨＰについては、経費もかかることなので会員の意向を踏まえ、改めて検討。まずは無料のものを自作し、試してから本格導入を検討

〈成果と今後〉

○情報発信についての方向性がまとまり、「今後は従来のチラシ等と合わせてSNSによる発信を行っていく」ことを決定。作業の過程の中で疑問等があれば講師に相談し、解決していく。
○本事業による支援については今年度で終了。但し、今後ホームページの作成等の具体的な導入計画が生じた場合には、現在、山口県が実施している「プロボノワーカー」による専門の支援制度を活用することが適当と思われることから、制度についての情報を当会に提供した。

②　周南ふれあいの森何でも工房（代表：村田　真博／周南市）

〈現状と課題〉

○会員が高齢化しており新規入会も難しいことから将来が不安である
○スタッフとして運営する側は負担が大きいため、「無償」のボランティアという訳にはいかない。有償でお願いしたいが資金難でもあり対応が難しいため、後継となってくれる人がいない
○会員が高齢であり人数も少ないことから、大きなイベントの開催や大人数の受け入れをするときに労務が大変である
○できれば拠点となっている施設を引き続き運営していきたいが、コロナで入場料収入が落ち込んでいる中、運営が難しくなっている
○若い人に活動や施設を知ってもらうための広報活動を行いたい

〈支　援〉

（１）情報の共有と課題の洗い出し
○HP や SNS での情報発信について専門講師の講義資料を送付し情報を共有
○活動の中での課題の洗い出しを県民活動支援センターのアドバイザーとともにヒアリングしながら実施
今後の方向性として、「家族単位のメニューの実施や、主催行事の開催により、積極的に人を呼び込む等、運営や施設に関する新しい活動計画・メニューを策定していく」ことを決定

〈成果と今後〉

○今回の支援は情報の提供と課題の洗い出しのみの支援にとどまった。
ヒアリングにより、団体が希望する支援は、市行政（特に運営資金に関するもの）や地域の協力や理解（単に活動を知ってもらうだけではなく、地域全体で活動を支えてもらえるような理解を得たいということ）と推測され、いずれも財団で支援できる範疇を超えており、対応が難しいものであった。
○令和３年度はコロナ禍で活動そのものが止まっている状態であり、令和４年度の見通しもたたないため、引き続きのフォローアップについての要望はなかった。今後活動の目途がついて、相談があれば対応していきたい。

①　紙人形劇団ネリノ〈支援３年目〉　（代表：谷本　和子／宇部市）

〈現状と課題〉

○若手メンバーの入団がない中、劇団内の高齢化が進み実稼働人数の減少に苦慮している
○大学との連携が進み始めたので、定着を図り若い学生を活動に呼び込みたい

〈支　援〉

（１）若い世代に向けた紙人形劇の周知の場を設定
○若い母親や学生をターゲットに、団体主催イベントでの公演により、活動をアピールする場を設定
○同時に大学生（山口芸術短期大学保育学科）に活動の裏方を体験してもらうことで、工夫された人形の動きや場面の転換といった、紙人形劇の楽しさや演じることの奥深さ、劇団活動の現場を知り、より魅力を感じていただく場とした

①放課後こども教室での公演
日時：10 月 15 日（土）10：00～12：00／13：00～15：00
場所：宇部市立厚南小学校体育館
参加者：約８０人（うち学生３５人）
○演目：「金色の足おと」（作：椋　鳩十）
○上演前の準備と公演リハーサル、本番公演と後片付けをセットにして午前午後で学生を入れ替えながら裏方と公演の両方を体験
○会員のインタビューや人形に触ってもらう機会も提供

②定例公演会での公演
日時：11 月 26 日（土）10：00～12：00／13：00～15：00
場所：宇部市立図書館２Ｆ講座室
参加者：約５０人（うち学生３５人）
○新作「さよならジャンボ」（作：やなせたかし）を上演
※①と同様の取組を学生を変えて実施

（２）広報ツールの作成と配布
勧誘を目的としたミニチラシを作成しイベント等で配布

（３）活動に必要な備品の購入
人形製作に必要な絵具やアクリル板、ワイヤー等を購入

〈成果と今後〉

〇山口芸術短期大学との連携は３年目となり、裏方の活動を含め、引き続き学生へ紙人形劇に興味を持っていただけるような場を設けることができた。

〇昨年度に続いて新たに１年生の学生が１人、体験入会という形で活動に参加するようになった。昨年度入会した学生は大学卒業を迎える３月から正式会員として活動されていくことが決定。

３年間の PR を通じて紙人形劇に魅力を感じる学生、職員が増え、今後の活動を通じて新たな学生の確保も期待できるものになった。

〇団体の意向により、支援は今年度で終了。今後は大学とできたネットワークを活かして会独自に若者に働きかけていく予定。

② Kananowa（かなのわ）　（代表：前田　亜樹／下関市）

〈現状と課題〉

○年間を通してほとんど毎日、子ども達を中心に食事を提供していることもあり、資金繰りに困っている
○ボランティアで子ども達の学習指導や体験活動の補助をしてくれるスタッフが不足している

〈支　援〉

（１）若い世代に向けた活動の周知の場を設定

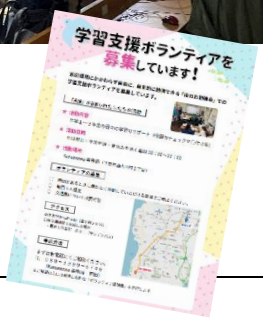
学生ボランティアの確保を目的に、市内の大学で活動 PR の場を設定

①東亜大学での説明会
・日時　　９月１４日（水）13：30～14：20
　　令和５年４月　６日（木）14：30～15：20
・参加者：教育課程を受講している大学生、教員約１５～２０人

②下関市立大学での説明会
・日時　１２月７日（水）
　参加者：教育課程を受講している大学生、教員約１５人

（２）広報ツールの作成と配布

大学生への勧誘を目的としたミニチラシを作成し
説明会で配布
東亜大学、下関市立大学の情報コーナーに設置



〈成果と今後〉

○活動の説明や PR を行った大学では、説明会後グループ LINE に登録したり、実際にボランティアとして活動を始めた学生（下関市立大学３人、東亜大学２人）もおり、今後も継続的に説明会を行うことで、より多くの学生のボランティア参加が期待できるものとなった。
特に東亜大学では、学生がボランティア参加しやすいよう、単位の修得にボランティアの活動が有利になるよう配慮いただけるようになった。

○大学側の理解・協力が進み、Kananowa の子ども達の大学訪問や、体験学習の場へ教員を派遣する等様々な案も出ており、次年度以降、違った形での連携や活動支援が期待される。

③　山口県ハーモニカクラブ　（代表：藤井　巌／山口市）

〈現状と課題〉

○小学校の教育課程からハーモニカが消え、子どもや若い世代にはハーモニカを知らない人も多く、ハーモニカへの関心が薄く、音色や魅力を伝えることに苦労している

〈支　援〉

（１）若い世代に向けたハーモニカの周知の場を設定

○若い世代を中心に、ハーモニカの魅力を伝えるため、当財団主催イベントで活動をアピールする場を設定

①県民活動フェスタ（萩）

日　時：１０月２０日（木）10：20～10：50
場　所：萩市市民活動センター「結」
参加者：約３０人
内　容：「心に届く郷愁の調べ」をテーマにミニコンサートを開催
「荒城の月」「月の砂漠」「大阪ラプソディー」等６曲を演奏

②家族みんなのフェスタ（中部）

日　時：１０月２３日（日）12：00～12：20
場　所：維新大晃アリーナ
参加者：約 1000 人
内　容：「荒城の月」などハーモニカの音色が映える曲を５曲演奏

〈成果と今後〉

○鑑賞に来られた方には、ハーモニカの音色の美しさだけでなく、複式呼吸による健康への効果や、手軽に始められる趣味の一つとしてのハーモニカの魅力を伝えることができた。
演奏会を通して萩市との縁ができ、令和４年度新たに「萩支部」を立ち上げることにもつながった。

○今後も様々な機会でハーモニカの魅力を伝えられるよう、イベント等の情報提供を行う等啓発活動に協力していく予定。

〈３年間の成果と考察〉

○当事業により、大学生や一般の方が会員に加わったり、ボランティアとして登録されたりという例や、今後の団体の活動方針や、運営基盤の見直しにつながったという例もあり、一定の成果があったと考える。

○一方で、直接的な支援につながらなかった団体もある。
ホームページの作成や、職員の雇用等、技術や多額の費用を要するもの、市行政機関との調整については財団として中々支援が難しく、検討すべき課題と思われる。

○「人材確保」と一口に言っても、背景となる社会情勢や団体の実情等により支援のニーズや手法は様々で、画一的なものはない。
まずは団体へのヒアリングを丁寧に行うこと、そして団体の望みや希望する形での支援が行えるよう、課題の原因を的確に分析しながら、県民活動支援機関や、大学等の組織と上手に連携していくことが必要である。
また、専門性や費用等の観点から、場合によっては、当財団の支援ではなく、他のより適切な支援先を紹介したりする等、柔軟に対応していくことも必要と考える。